



住宅ストック産業の動きに向けて活動活発化

新築住宅着工件数は今後、2020年より減少傾向の予測が出ており、住宅産業界の事業者は各位対策に動いている状態の中、不動産団体から出ている情報では、2016年情報で既存住宅の不動産売買は全国で約57万件という数値になってきていることが発表されました。国土交通省情報での既存住宅流通量では、基本が住調ベース、不動産団体では登記のない物件も含まれた件数が発表されました。いわゆるセカンドハウスや法人が売買した物件等を含めた件数であり、今後のストック産業としては見逃せない不動産やり取りが含まれています。

建物は、ただ住むという機能だけではなく、どう使うか、どう利用するかという資産活用が住宅産業界においてもとても重要なフェーズに入ってきたことがうかがえます。

【「全国版空き家・空き地バンク」を高機能化し、4月から本格運用を開始！】

昨年10月から試行運用していた「全国版空き家・空き地バンク」

更なる高機能化を図り、本年4月から本格運用が開始

国土交通省ホームページ

http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo16_hh_000167.html

空き家・空き地バンクでは新たな検索軸の構築（農地付き空き家・店舗付き空き家）

農産漁村地域への移住や空き家等を活用して店舗を経営したいというユーザーのニーズに応えるため、『農地付き空き家』、『店舗付き空き家』に関する新たな検索軸が含まれました。空き家も立地や建物の状況だけで考える時代ではありません。

その物件がどう利用できるのか、何に利用することが可能なのか、といった使い方の面で考えられていかなければなりません。

消費者も、法人も、いい物件・資産として使うことができる物件をどのように探していくかがポイント。空き家・空き地バンクにも登録されていない良物件はいったいどのように探したらいいのか。またどこに相談しに行けばいいのか、単純に不動産会社に行くだけでは利用方法や活用方法までは話してくれません。

家づくりにおいてプロだからこそ、様々な提案が出来る時代です。今まさに不動産事業と住宅事業は垣根を越えて連携していくことが求められています。

住宅産業ビジネスは新次元に入ってきました。

「全国版空き家・空き地バンク」の本格運用に向けた高機能化（別紙） 国土交通省 【LIFULL】

1.「全国版空き家・空き地バンク」の高機能化

一般消費者の興味・関心が高い項目を地図上で重ね合わせて表示できる機能を構築！！

ハザード情報（地震のゆれやすさ）

地形情報（過去の航空写真）

地形情報（標高マップ）

複数情報を重ねて表示可能!!

2.新たな検索軸の構築

【店舗付き空き家のイメージ】

【農地付き空き家のイメージ】

「全国版空き家・空き地バンク」の本格運用に向けた高機能化（別紙） 国土交通省 【アットホーム】

1.「全国版空き家・空き地バンク」の高機能化

一般消費者の興味・関心が高い項目を地図上で重ね合わせて表示できる機能を構築！！

ハザード情報（ゆれやすさ・活断層）

売買・賃貸相場情報（県全体と当該エリアの比較が可能）

生活支援情報（学校・ショッピング施設・病院など複数情報を重ねて表示）

お役立ち情報のリンク集（防災・地価公示・不動産用語など）

2.新たな検索軸の構築

【店舗付き空き家のイメージ】

【農地付き空き家のイメージ】

その他の店舗部分（土間）